



広町公園（撮影 阿部会員）

令和2年 10月号 Vol.198
(2020年)

発行：令和2年 10月 10日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 阿部 啓冊

《厚木の巡礼道》

行事区分：新人会員研修

日 時：9月19日（土）10：00～11：30

場 所：妻田薬師～飯山弘徳寺

参加者：会員 6名

鎌倉時代に西国三十三観音巡り（京都と関西地区）を模して始まった坂東三十三観音巡りは、江戸時代になると一般庶民にまで流行しました。

厚木の巡礼道は、市内にある6番札所の飯山観音、平塚市にある7番札所の金目観音、座間市にある8番札所の星の谷観音へ、参拝する巡礼者が通った道を主に名付けています。

巡礼者は決められた道を通るのではなく、物見遊山を兼ねて名所旧跡を訪ねました。

巡礼道は保存されていませんし、昔の風情はほとんどありません。

舗装され道幅も広くなり、新しい道路、大きなバイパス道路等に寸断されていて、江戸時代から場所が殆ど変わらない、巡礼道沿いの神社仏閣、石造物の道標等を目印にして、なんとか辿ることが出来ます。

今回は妻田薬師に集合してスタートしました。



妻田薬師クスノキ前

妻田薬師

道標を兼ねた地蔵像が正面から境内に入って直ぐ右側に置かれています。

妻田薬師は指定文化財の保存数が厚木市で最も多いお寺です。

①県指定天然記念物クスノキ（樹齢約500年）

以下は市指定文化財です

②薬師堂 ③厨子④須弥壇⑤銅鐘⑥薬師如来立像⑦薬師如来坐像⑧日光・月光菩薩立像⑨十二神将立像

平成24年12月に市の文化財保護課から「市内に所在する国と県の文化財の案内版の損傷状態を調査して欲しい」と依頼されて会員2名で廻りました。

妻田薬師ではクスノキの案内版を写真に撮り、損傷している旨を文章で報告しました。報告後、案内版は新しく取り替えられました。市に提出した昔の案内版の写真を持参して、今の案内版と比べていたら、同行した会員が案内の文面が変わっていると、素早く読み取って指摘しました。写真を撮った私も気付かなかったのに、その鋭さに少し驚きました。

それから県営及川団地の中にある山の上古墳（1号墳と2号墳）を見て、及川球技場施設内のベンチで休憩しました。

及川八幡神社

祭神は応神天皇。徳川家康から1石の御朱印状を受けて及川村の鎮守になった神社です。

神社前を道幅の広いバイパス道路が通っています。道路建設で拝殿正面の鳥居が障害になり、止む無くバイパス道路の右横から階段を昇り、階段上に鳥居が移されていました。そんな事情で鳥居は拝殿正面ではなく右横に建てられています。

境内は狭く、現在の神社には不釣り合いな程大きな石碑に「村社 八幡神社」と書かれていて階段下に建てられていました。昔の神社の隆盛を物語っていました。

次に八幡神社に近い十二神社を訪れました。

十二神社の前は巡礼道で飯山村の安西金佐衛門が寄進した六体地蔵の内一体が祀られています。

富士塚

江戸時代の宝永4年（1707）11月23日富士山の大爆発が12月8日まで続き厚木地方では約20cmの降灰が積り農作物等大きな被害を受けました。

火山灰を取り除く作業の際に山の様に積み上げ富士塚が出来ました。高さは五尺（約152cm）もありましたが、道路拡張工事で崩されて現在は石碑が建っています。

千光寺

古義真言宗で開基は弘法大師と伝えられています。

本尊は如意輪観音ですが、最近の檀家さんの話では不動明王が本尊とも言われています。

境内に龍田（たつた）神社があります。

明治の神仏分離令の時、境内を分けて雑社（境内の小さな神社）としています。

祭神は級長津彦命（しなつひこのみこと）級長戸部命（しなとべのみこと）、神仏分離令の時は、神社と仏閣のどちらかを主にして、片方は痕跡も無い様に処分することが多いですが、ここは日光の東照宮と輪王寺と二荒山神社の様に同じ敷地内に隣接する珍しい所と思いました。

高校の修学旅行で北九州から日光を訪れた時、先に東照宮を見学してその後に輪王寺に行き、説明役の僧侶の方が東照宮の悪口を大声で話して、何か！と大変驚いたことを、千光寺の前を車で通る時はいつも思い出します。ここは仲良くしているのでしょうか？

弘徳寺

弘徳寺前の幹線道路際に「あつぎの文化財獨案内板」が新しく設置されていて、付近の史跡や文化財の説明と地図が書かれていました。

浄土真宗本願寺派（西本願寺）で開基は信楽（しんぎょう：親鸞の直弟子）で本尊は阿弥陀如来立像です。

縁起によると親鸞が布教の折に駐留した旧跡で、親鸞の嫡男善鸞がここに草庵を結び弟子浄念と居住したが、宗義を乱した事から父親の親鸞から勘当され開山開基信楽になったそうです。

墓地には善鸞上人墓と信楽上人の供養塔があります。

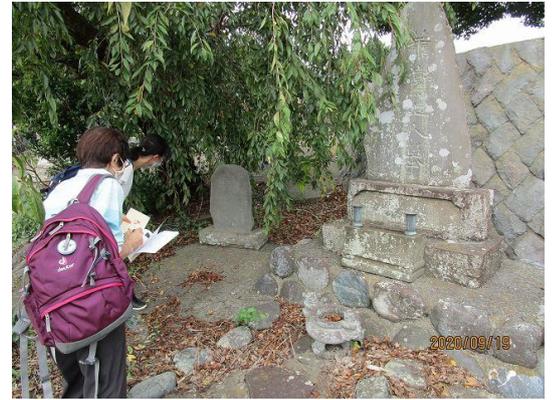
徳川家光より29石3斗余の御朱印を受けて寄進された山林、竹林があり、諸役を免除される等、厚木市内では最高の恩恵を賜っています。

秋の彼岸に近い土曜日とあって檀家の方々が三々五々お墓参りをされていました。私は信仰心が殆どありませんが、それでも浄土真宗の教義や作法について少し知っていたので、同行した会員とその話をしながら帰りました。

天気が不安定で傘を持参して参加しましたが、幸い日光も弱く雨も降らず約3kmを歩き新型コロナウイルス感染で自宅にくすぶり、運動不足になっている私にとって程よい気分転換と運動になりました。飯山の弘徳寺から、さらに及川や愛名の方面に歩かれた方がいました。驚きです。私も自宅までは同じ様な距離ですが3km歩いた後、さらに歩く気にはなりませんでした。

残りの会員はバスで駅前に戻り、レストランに入ってビールと水（下戸の人）で乾杯して食事をして解散しました。

（寺田 記）



弘徳寺 善鸞上人墓

《厚木ワイズメンズクラブ 9月の例会講演》

行事区分：依頼ガイド（講演依頼）

日 時：9月23日（水） 18:40～19:20

場 所：厚木YMCA

参加者：会員3名 厚木ワイズメンズクラブ10名

この講演の依頼は、厚木ワイズメンズクラブ*注の日下部会長から観ボラ会員の一人が9月の講演の件で相談を受けた事が始まりです。その結果、9月の講演は、江戸時代後期に厚木を訪れた「渡辺崋山」をテーマに観ボラが引き受ける事になりました。

最初の電話での打ち合わせの際、日下部会長が“地味なお話し”とか“渋いお話し”と形容された事がおかしく、それが崋山の一般的な受け取られ方なのだと改めて思いました。折しも、あつぎ郷土博物館で、特別展『「優しい旅びと・渡辺崋山展」—「厚木六勝」と「游相日記」—』が開催されている事に力を得て、私も私なりの「渡辺崋山と游相日記」をお話ししたいと考えました。

「游相日記」は、天保2年（1831）秋に、崋山が門弟高木梧庵を連れて相州厚木を訪れた1週間ほどの旅の紀行文です。梧庵は気さくで気の良い青年です。「游相日記」には行く

先々のエピソードにまつわる面白いスケッチがたくさん載っています。そのスケッチをプロジェクターで映し出しながら話そうと最初から決めていました。

華山の従来のイメージ “武士で、有名な画家で、忠孝の鑑で、幕末の悲壮な時代の先駆者” “みたいな硬いイメージから出て、お酒好きで社交上手で愛嬌のある華山、広い理解力を持って人を公平に見る事ができる華山、を知って貰いたいと思いました。そして厚木ワイズメンズクラブの皆様 新しい知人ができたように感じて頂けたら本当に嬉しいと思いました。



しかし、華山はこの愉快的旅の8年後には、蛮社の獄で捕らえられ、10年後には国元田原の幽居で自刃して果てます。相州厚木から戻った翌年に家老職という重要なポストに抜擢され、海防係りも兼ね、西洋の新知識を得る為に高野長英らと蘭学研究も始まります。更に江戸留守居役も務めるようになると藩務は多忙を極めます。そして天保の大飢饉が起こり、それが数年続きました。全国で10万人以上の方が餓死していますが、華山は乗り切り、田原藩では一人の餓死者も出ませんでした。そしてついに華山たちの蘭学研究が幕府保守派の忌諱に触れ、捕らえられて国元蟄居の判決を受けるのです。

最後の10年間の胸の詰まるような重圧の中で、華山は国宝「鷹見泉石像」をはじめたくさん傑作を描いています。それを思うと相州厚木への旅の頃の華山は、生涯ついて回った経済的逼迫も比較的軽く、まるで真綿に包まれた安楽で楽しいポケットの中にいるようです。

今回の依頼講演では、私は「游相日記」に描き出されるその頃の快活な華山の事をお話ししました。

(前澤 記)

注：ワイズメンズクラブは、青少年の健全な育成を原点として生涯教育と取り組むYMCAの活動を支援し、30余年前から昔話などを語るストーリーテラーとして図書館・小学校・保育所などで活動し健康づくりの手伝いを行うことをライフワークにしている団体です。

(厚木ワイズメンズクラブHP参照：編集担当)



会員投稿

《清源院の大改修》

高野宏

三田のほぼ中央にある清源院（曹洞宗）は平安時代（永承5年）の開創です。現在の本堂は約190年前の江戸時代（天保3年）の建造物ですが6年前の平成26年から大改修を行いました。取り壊しの時点から改修の様子を目にしてきました。工事は使える材料はなるべく使用して新しい部材に差し替えて復元されました。

本堂はベテラン棟梁の目視による指示により油圧ジャッキで持ち上げ古い土台や柱などを取り外して新しい部材に差し替えられました。

屋根の骨組みと9本の内陣柱は残し他の数十本の柱は奈良県の吉野から取り寄せたヒノキ材に替え、再利用できる板材などは曳き直して使うなど多くの時間と手間をかけた改修工事でした。改修には5億円をかけ3年計画と聞いていましたが本堂横の座禅堂の改修も行われ6年を経た現在、すっかり化粧直しされた清源院は香炉など外構工事を残すばかりになっています。



平成26年8月 時点

令和2年9月現在



「玉川ジグザグ散歩」の最終回です。-----
今号は、堰神社から聞修寺までの風景です。

《玉川ジグザグ散歩》(その3)

佐々木 靖子

1. 玉川 (8月号に掲載)
2. 依胡田たぬきの像
3. 愛甲小学校と愛甲公民館
4. 宝積寺
5. 赤坂橋
6. 明神池道標 (2~6は9月号に掲載)

7. 堰神社

玉川の用水堰に身を沈めて村の旱魃(かんばつ)を救った桂坊と言う山伏の霊を祀った事に由来すると言います。境内には山王社と八坂神社が祀られています。



8. 衣塚

旱魃から村を救うために、その身を沈めた山伏の霊を祀った記念碑。自ら人柱となり、旱魃と村民の水争いを救った山伏の脱いだ衣を玉川の中州に埋めて「衣塚」という遺跡として残されました。

9. 縁切り橋道標

鎌倉時代に愛甲三郎季隆（すえたか）は源頼朝に愛されていた「丹後の局」を案内して、安産祈願のために日向薬師にお参りした時に、頼朝の妻「政子」が差し向けた1千騎の軍に焼き討ちされ、この急報を受けた季隆はこの橋のたもとまで来るとすでに館は火の海、これを機に季隆は北条から心が離れてしまい、後に和田合戦へと進んでいます。

この事から村人はこの橋を「縁切り橋」と呼ぶようになりました。



この場所から玉川球場右横の坂道を登ると玉川中学校があります。山の段差をうまく利用した造りで、一番上が四階建校舎、一段下がって体育館、その下がグラウンド、一番下がテニスコートになっています。

この様な段差の造りの中学校は厚木ではここだけです。岩田山公園は玉川中学校の裏手山になります。

10. 小野神社

この神社は建久五年（1194）愛甲三郎によって再興されたとも言われています。愛甲氏の本家の横山氏は小野妹子の子孫とも伝えられ、愛甲氏の家系の信仰は厚く、特に江戸時代には愛甲姓の武将の参詣が記録されています。

現在の拝殿は嘉永元年（1848）に建てられ、昔はわら葺き屋根でしたが、昭和四十三年に鉄板葺きに改築され、本殿は神明造りで、拝殿より1メートルほど高く造られています。明治の初めころまで伊勢神宮のお札が小野神社にまとめて届けられ、そこから周辺の各神社に配布されたりしました。寒川神社、阿夫利神社と共に格式の高い神社でした。



11. 旧玉川の道標

旧玉川は大山の東側が源で農業用水として大きな役割を果たしましたが、関東大震災後は降雨の度に河床が高くなり、たびたび氾濫して被害が続出しました。かつては美田を潤した川が人命を奪う魔の川となったので、新玉川が作られました。

この道標からつつら折りの階段を169段登ると小町神社があります。

12. あひるの里

かつてテレビでも紹介されたことのある、あひるの横断歩道があります。その頃には横断歩道にあひるの絵が描いてありました。今では「この先あひるの横断歩道がありますのでご注意ください」の標識があります。

あひる小屋の手前に森の里からの細田川が合流しています。細田川は森の里の若宮公園から、2 キロメートル足らずの長さで幅も 3~4 メートルくらいなのですが一級河川です。

市役所河川ふれあい課に問い合わせたところ、一級河川とは国土や国民を守るために重要な水系に流れ込む川の中でも河川法による管理が必要であると国が指定した川ということです。



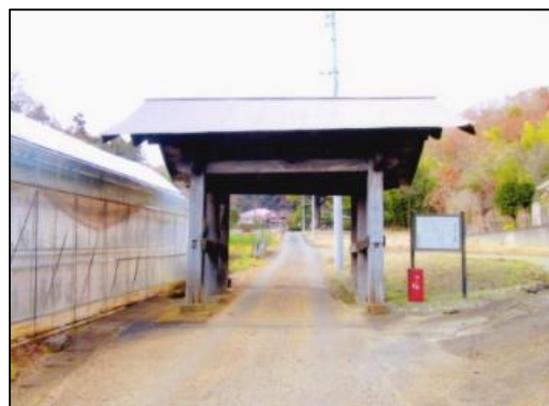
13. 龍鳳寺

木々の生い茂った森の中の階段を 153 段登ると龍鳳寺です。本堂の天井いっぱい龍の絵が描かれています。泣き龍だったそうですが、天井に飾り物をつけてから泣きが弱くなりました。また、堂内には護三和尚が彫刻した丈六の釈迦如来像が安置されています。境内の裏地の竹藪の中に「左近塚」があり地頭の墓と伝えられています。（もともと古墳だった上に墓を作ったようです）

14. 聞修寺

この山門は、一間一戸四脚門で元は茅葺屋根でしたが、現在はトタン葺きです。また腰に長押（なげし）を廻すなど本格的な四脚門の造りです。（丸に橘、丸に三銀杏、丸に下り藤、丸に抱き茗荷、水に沢湯（オモダカ）、首をぐるぐる回して全部見つけました）

山門にかかる扁額（へんがく「龍澤山」）を含め市指定有形文化財になっています。



玉川ジグザグ散歩は聞修寺山門で終わりです。神社やお寺の歴史は、資料の方に載せていますが、ここでは割愛しました。

このコースは晴天に恵まれた四月の始めに、3人で下見をしました。コロナの事が気掛かりでしたが、まめな手洗い、マスク着用、離れて歩くことを約束して実施しました。（散歩の終わりは玉川上流のファミリーレストランで乾いた喉を潤しランチに致しました）どこでも満開の桜に優しく迎えられ、気持ちの良い楽しい1万7千歩の散歩になりました。

編集後記

秋の気配が色濃くなるとともに、各団体の活動も再開され始めました。とはいえ開催方法は、これまでとは少し変わってきているようです。早く慣れることが必要なようですが、皆さんはいかがでしょうか。

さて、巻頭の写真は広町公園付近の風景です。こちらではいつもと変わらぬ季節の移り変わりを見ることができました。毎年、自然が見せてくれる秋の彩りです。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 長谷川 和美
前澤 宣子

最近の活動

日 時	場 所	内 容	参加者
9月 10日	厚木市市役所第二庁舎	厚木市観光振興推進委員会	会員 1名
9月 12日	アミューあつぎ	定例会・学習会	会員 18名
9月 19日	妻田薬師一千頭近辺	新人会員研修 厚木の巡礼道	会員 6名
9月 23日	厚木YMCA	依頼ガイド 厚木ワイズメンズクラブ 厚木の歴史紹介	会員 3名
10月 3日	保健福祉センター	役員会	会員 6名
10月 5日	南公民館	編集会議	会員 4名

令和2年10月・11月 行事

	日 時	行 事	会場・場所	内 容	申込先
10 月	10日(土) 10:00~13:00	定例会・学習会	アミューあつぎ	マスク着用 定員 22名	サークルスクエア
	13日(火) 09:30~12:30	かながわガイド 協議会 訪問ガイド研修	浦賀近辺 よこすかシティ ガイド協会主催	約5km マスク着用 アンケート有	サークルスクエア
	15日(木) 14:00~16:00	厚木市観光振興 推進委員会	厚木市市役所 第二庁舎	—————	—————
	16日(金) 14:00~15:30	文化財一般公開 勉強会	飯山観音	支援者限定	サークルスクエア
	30日(金) 09:00~15:30	こんにゃく作り 体験	上荻野	会費800円 エプロン・タオル等	サークルスクエア
11 月	3日(火) 09:00~16:00	文化財一般公開 支援	飯山観音	観音堂・山門など マスク・ベスト着用	サークルスクエア
	7日(土) 09:00~12:00	役員会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア
	8日(日) 09:00~16:00	秋季観光客入込み 調査	市内5か所	各所 2名 (計 10名)	サークルスクエア
	14日(土) 10:00~13:00	定例会・学習会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア

お願い 行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。

提出期限は定例会の1週間前（編集会議と印刷のため）